

IMF世界経済見通し—「デリケート」な局面から持ち直しへ

2019年4月10日作成

主要国の緩和的な金融政策が新興国経済の追い風となり、世界経済は2019年後半から再加速へ

- IMF（国際通貨基金）は4月9日、「2019年前半は世界経済の伸び悩みが続く」との現状認識を示しました。
- 2019年世界経済成長率は3.3%と前回の1月予測から0.2%下方修正されました（図表1参照）。2018年後半に表面化した、貿易摩擦の激化、中国の融資姿勢の厳格化、主要先進国での金融引き締め、などが景気減速要因であったと指摘されました。
- 一方で、緩和的なスタンスに変化した主要国の金融政策や米中の貿易協定の具体化により、「2019年後半から世界経済の再加速を予測する」との見通しが示されました。

【図表1】主要国の経済成長率(IMF予測値、前年比%)

	2017年	2018年	2019年(予測値) [3カ月前予測値からの変化幅]	2020年(予測値) [3カ月前予測値からの変化幅]
世界	3.8	3.6	3.3 [▲0.2下方修正]	3.6 [修正なし]
日本	1.9	0.8	1.0 [▲0.1下方修正]	0.5 [修正なし]
米国	2.2	2.9	2.3 [▲0.2下方修正]	1.9 [+0.1上方修正]
ユーロ圏	2.4	1.8	1.3 [▲0.3下方修正]	1.5 [▲0.2下方修正]
スイス	1.7	2.5	1.1 [▲0.8下方修正] ^(注1)	1.5 [▲0.2下方修正] ^(注1)
豪州	2.4	2.8	2.1 [▲0.7下方修正] ^(注1)	2.8 [+0.1上方修正] ^(注1)
カナダ	3.0	1.8	1.5 [▲0.4下方修正]	1.9 [修正なし]
新興国 ^(注2)	4.8	4.5	4.4 [▲0.1下方修正]	4.8 [▲0.1下方修正]
中国	6.8	6.6	6.3 [+0.1上方修正]	6.1 [▲0.1下方修正]
インド	7.2	7.1	7.3 [▲0.2下方修正]	7.5 [▲0.2下方修正]
インドネシア	5.1	5.2	5.2 [+0.1上方修正] ^(注1)	5.2 [修正なし] ^(注1)
南アフリカ	1.4	0.8	1.2 [▲0.2下方修正]	1.5 [▲0.2下方修正]

注1：6カ月前予測値からの変化

注2：新興国はIMFが公表した日本語版では「新興市場国と発展途上国」

出所：IMFデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

貿易摩擦問題、英国のEU離脱などは引き続き懸念材料

世界経済は、巡航速度で推移しており、不況になるとは予測されていないものの、依然、米中の貿易摩擦問題や英国のEU離脱などが成長率の下振れ要因として懸念されています。

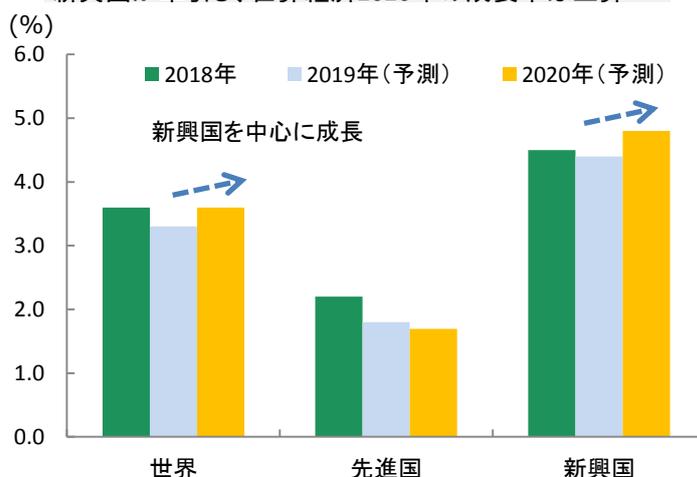
2019年後半からは、新興国を中心に世界経済の成長率は上昇へ

先進国の主要中央銀行が緩和的な政策スタンスへと舵を切り、世界経済の押し上げ要因になると期待されていますが、牽引役となるのは先進国というより、先進国からの資金流入や資金調達コストの低下が見え始めている新興国と予測されています。

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。
- 当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。各主体は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任はありません。

【図表2】経済成長率(IMF予測値、前年比%)

新興国が牽引し、世界経済2020年の成長率は上昇へ



出所：IMFデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成